

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500162
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会
事業所名	グループホーム LOHAS・KOTI
所在地	愛媛県新居浜市船木甲2216-39
自己評価作成日	平成27年10月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日当たりの良い、自然に囲まれた静かな環境にあり、季節を感じながら、穏やかに過ごしていただいている。利用者の一人ひとりの気持や個性に寄り添い、環境を整えることで、その人本来の力が生き活きと発揮できるように努めている。また、季節の応じた行事や制作活動などを通じ一人一人の出来る事を見つけ生活の中に取り入れる事で楽しみや生きがいを見いだせるように工夫をしている。

●居室入り口の棚には、個別に連絡ノートやアルバム、作品集をケースに入れて置いており、ご家族は、利用者と一緒に話をしておしゃべりして過ごされる。時には職員も仲に入ってエピソード等を報告しながら、話しやすい雰囲気作りに工夫している。連絡ノートは、ご家族がケア等への意見や要望を書いており、事業所からもご家族への連絡事項を書く等している。2ヶ月に一回送付する「おたより」は、「利用者の様子がよくわかる」と好評のようだ。ご家族から譲ってもらった杓と臼を使って餅つきを行っており、ご家族も手伝ってくれる。
●職員の異動が多かった時期には、申し送りや業務の統一が出来ていない点もあったため、現在は、各ユニットにリーダーを配置して、リーダーを中心に月一回ユニット会を行いケアの見直し等する体制や仕組みをつくった。問題解決に向けて、月2回会議を行ったこともある。又、申し送りノートをつくり、職員間で情報共有にも努めている。法人全体で、「感染について」や「ケアプラン」等の研修が実施されており、職員の経験年数に応じてスキルアップできる仕組みがある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらい と
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム LOHAS・KOTI

(ユニット名) 西の家

記入者(管理者)

氏 名 越智 賢二

評価完了日 平成 27 年 10 月 14 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員の共有理念として、「今日一日をその人らしく」・「同じ 目線、同じ歩幅でゆっくりと」を目標に、理念がケアに反映 されるように全体会やユニット会等で個別ケアについての 話し合いや、研修会にて意識し取り組んでいる。この理念 を玄関やユニット毎に掲示し、来訪者にも分かるようにして いる。	
			(外部評価) 事業所の理念とともに、法人の今年度目標「丁寧」を玄関 や台所に掲示している。毎月のユニット会や全体会では、 理念が実践できたか振り返っている。管理者は、利用者が 「一日が楽しかった」と思えるよう、利用者個々のできること を行えるような支援に取り組んでほしいと職員に話してい る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域にある美容室、スーパー、コンビニ等を活用し、散歩、 ドライブを近隣の公園等で行い、新居浜太鼓祭りの時には 地区の太鼓を招き入れお花を渡したりしながら、地域の方 と話や触れ合う機会を作っている。また、慰問で毎月の コーラスや季節毎にお琴の演奏会の受け入れをしたり、見 学の受け入れも積極的に行っている。	
			(外部評価) 地域の秋祭りには、太鼓台が事業所の駐車場に来てくれ て、利用者はお花を渡し、太鼓台の中に入らせてもらったり 太鼓を叩いたりして祭りを楽しんでいる。地域のコーラス や日舞のボランティアの方を受け入れている。地域の子ど も達とのふれあいを試みたが、送迎の関係で難しい面があ り、現在は職員の子ども達が休日に来て、利用者とかれた やゲーム等して一緒に遊ぶ等して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 問い合わせや電話相談・見学などには、丁寧に対応し、地 域の人が立ち入りやすい場所であることを理解してもらえ るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			事業所の活動報告や課題などについて意見交換を行い、意見 や提案などについては、運営に活かせるように努めている。会議 の日程を固定し、面会時や手紙にて参加を呼びかけているが、 家族の参加が少ない事が悩みである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組を積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議には、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員 や利用者が参加して、土曜日の午前中に行っている。会議では 行事報告や予定、事故報告、外部評価結果の報告等を行い意 見を聞いている。会議と併せて消防訓練を行ったり、手作り食事 の試食会等を行ったこともある。ご家族には「おたより」で案内し、 来訪時に参加を促しているが、「どんな話をするの?」「普段に意 見を言えるから大丈夫」等と言われ参加は少ない。	施設長は、近くのコンビニの店員等にも会議に参加してほしい と考えている。会議のすすめ方や内容等も工夫して、地域 のいろいろな立場の方が会議に参加できるよう取り組み、多 くの方から意見を聞いてほしい。又、ご家族にも会議の意義 や目的、又、会議内容を知らせて参加につながるよう工夫し てほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			生活空間は、両ユニットが交流できるように、ユニット間の仕切りを 開放している。基本的には玄関の施錠は夜間のみで、日中はす べて開放しているが新規の利用者の状態をみて期間を定めた施 錠の検討を行っている。また、いつでも誰でも出入りできる環境に している。また、身体拘束に関する勉強会を通じて、職員の理解 を深めている。	
			(外部評価)	
			職員は、内部研修で身体拘束について勉強をして、身体拘束を しないケアの実践に取り組んでいる。夜間ベッドからの立ち上がり 時にふらつきがある利用者には、ベッドにセンサーマットを敷いて 対応している。職員を呼ぶための鈴を枕元に置いている方もあ る。利用者の状態が落ち着かない時には、玄関に通じるドアを開 めることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			高齢者虐待について、職員の共有認識が図れるように、研修を行っている。職員の関わり方が利用者の気持ちを抑圧していないか、カンファレンスや全体会、ユニット会などを通じて振り返る機会をもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在、具体的な事例は無いが、利用者の権利を守るために必要な制度として認識し、勉強会を通じて制度への理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入所前に、重要事項の説明を十分行い、リスク等についても、利用者やご家族に十分理解していただいたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			面会時などに、ご家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。個人個人の連絡ノートを作成し交流を図っている。季節毎の大きな行事の時にはご家族の参加を声掛けし行事に参加してもらう等、日頃から話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見や提案が運営に反映されるように前向きに検討している。	
			(外部評価)	
			居室入り口の棚には、個別に連絡ノートやアルバム、作品集をケースに入れて置いており、ご家族は、利用者と一緒にそれらを話題にしておしゃべりして過ごされる。時には職員も仲に入ってエピソード等を報告しながら、話しやすい雰囲気作りに工夫している。連絡ノートは、ご家族がケア等への意見や要望を書いており、事業所からもご家族への連絡事項を書く等している。2ヶ月に一回送付する「おたより」は、「利用者の様子がよくわかる」と好評のようだ。ご家族から譲ってもらった杓と臼を使って餅つきを行っており、ご家族も手伝ってくれる。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会では、意見交換や様々な課題の検討を行い、職員の意見や提案が運営に反映できるように前向きに検討している。また、毎月ユニット会議も行い、ユニットリーダー、管理者も参加しユニット内での意見も取り入れ運営している。	
			(外部評価) 職員の異動が多かった時期には、申し送りや業務の統一が出来ていない点もあったため、現在は、各ユニットにリーダーを配置して、リーダーを中心に月一回ユニット会を行いケアの見直し等する体制や仕組みをつくった。問題解決に向けて、月2回会議を行ったこともある。又、申し送りノートをつくり、職員間で情報共有にも努めている。法人全体で、「感染について」や「ケアプラン」等の研修が実施されており、職員の経験年数に応じてスキルアップできる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員の勤務状況や実績を把握しており、職員一人ひとりが意欲をもって働ける職場の環境に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容は、職員会や閲覧などで報告する機会を設け、実践につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着部会の定例会での勉強会や意見交換を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人やご家族からの要望や、出来る事、できない事を把握し、サービス内容(ケアプラン)ををできるだけ一緒に考えるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との事前の話し合いの中で、家族の思いを汲み取り、理解していくことで、家族との関係を築くように努めている。また、ケアプランにも反映し家族と一緒に考えていくようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極めるように努めている。福祉用具や、医療系サービスについても、そのニーズに応じて利用してもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者それぞれの残存機能を活かしながら、役割を持って生活し、職員とも協働しながら、喜びを共に味わい支え合えるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と家族の関係を理解し、報告や相談を密に行いながら、良い関係が無理なく継続できるように努めている。また、面会や外出、外泊等の働き掛けも行い、一緒に過ごす時間の大切さについても話を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで本人を支えてくれている家族等からの手紙や外出支援、面会などがある。家族の支援で自宅に日中戻られたり、外泊される事もある。地域の方と交流をしに帰られたりした方もいる。入居前から習っているピアノのレッスンを、引き続き利用したり、入居前から行っている美容室に行かれたりとなじみの関係が続けられるように支援している。 (外部評価) 利用者が年賀状や暑中見舞いハガキをご家族宛に毎年出せるよう支援している。今年の暑中見舞いハガキは、利用者と職員で手漉きしたものを使用し、ご家族に好評であった。友人がおやつ持参で訪ねて来るようなこともある。入居前から習っているピアノの先生が送迎してくれて、週に一回レッスンを受けている方がある。週末に息子の家に泊まり、翌日娘さんと買い物して戻ってくる方もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性がうまくいくような、働きかけを職員は行い、共に過ごす事が楽しみとなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次のサービスを探したり、情報などを関係者に引き継ぐ等の支援を行っている。契約終了時には、いつでも相談に応じることを伝えている。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人の言動を良く観察し、表情やしぐさからも伝えたい思いを感じとったりするように努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で積極的に話しかけるようにしている。利用者の様子を見て、他者がいない場所でゆっくりお話を聞くようなこともある。トイレ時や入浴時など利用者と職員がマンツーマンになる時には「何か心配なことある?」「何がしたい?」等と聞くと、よく話しされるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴やサービス利用に至った経過など、家族や本人からの聞き取った情報をもとに、本人を知るような取り組みを行っている。また、居室内は本人が落ち着けるようなレイアウトや持込の依頼をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを職員は把握し、24時間シートをもとに個別ケアに努めている。職員が一緒にやってみるような場面をつくり、出来る事を見出している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画は、本人や家族の希望や意向をとりいれ、三ヶ月に一度見直しを行っている。ケースカンファレンスを開催しモニタリングとアセスメント実施。状態変化や入院等に応じて、職員の意見や家族の意見を参考に修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画は、入居当初は1ヶ月で見直し、以降は3ヶ月毎見直しをしている。「24時間シート連動ケース記録」は、日々の介護記録と評価を記録するようになっている。月末には、担当職員がケース記録をまとめた「支援経過記録」を作り、それらを反映して、計画の見直しにつなげている。計画作成担当者は、計画を立てる際には、「認知が進まないようなリハビリを行う」ことや「役割を持ってもらう」「本人やご家族の希望、必要な支援」を考え作成することに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて、通院や外出、外泊支援など、出来る限り柔軟に対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			本人の希望に応じて、地域の理美容サービスを利用したり、訪問してもらったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医の場合は、受診介助は家族に依頼している。遠方であるなど状況に応じ、職員が対応している。受診結果は記録し、家族と共有している。訪問診療にきてもらうケースもある。	
			(外部評価) 病院受診は、ご家族の協力を得て支援している。ご家族の都合がつかないような時には職員が同行して支援している。協力医が2週間に一度往診に来てくれており、必要時には、連絡すると往診してくれる。訪問看護師が週3回来て、利用者の健康管理をしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の日々の健康状態を把握し、異常の早期発見に努め、状態変化は、直ちに看護師に相談。その場で出来る処置は行い状況に応じて家族へも相談し適切な受診につなげている。	
			(外部評価) 入院時には病室に出向くことや、家族と連絡をし合う事で状況把握を行い、必要に応じて医療機関との連携や情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には病室に出向くことや、家族と連絡をし合う事で状況把握を行い、必要に応じて医療機関との連携や情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。	
			(外部評価) 契約時には、事業所の方針を説明している。利用者の状態変化に伴い、常に家族の意向も確認しながら、事業所でできる支援について説明している。また、重度化しても対応できるように入浴設備や定期的に研修にて重度利用者への身体介護についても検討している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時には、事業所の方針を説明している。利用者の状態変化に伴い、常に家族の意向も確認しながら、事業所でできる支援について説明している。また、重度化しても対応できるように入浴設備や定期的に研修にて重度利用者への身体介護についても検討している。	
			(外部評価) 入居時には、事業所の「看取りに関する指針」を説明して、事業所で出来る支援について話している。その後は、利用者の状態をみて利用者やご家族と話し合い、今後の暮らし方について意向を確認している。「最期まで事業所におりたい」と言われる方もある。事業所は、訪問看護とも連携したことで管理者は、「できるだけ意向に沿って支援していきたい」と話していた。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会等で、定期的に応急手当やAEDの使用方法、緊急時の対応マニュアルについて勉強し、職員間で周知できるように努めている。AEDについてはシュミレーション機で使用方法と心肺蘇生法の勉強をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中や夜間を想定して、避難訓練を利用者とともにやっている。地域との協力体制は推進会議でも依頼をしており、会議内で夜間、日中と役員の方々と訓練を行っている。その際に施設の避難経路や構造についても説明をしている。また、近隣の同一法人内の施設にも依頼をしている。今後は地震などの災害も想定して、必要な訓練の実施に努めたい。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。運営推進会議時に参加者と一緒に実施した際には、あらかじめ事業所の見取り図や避難経路等について説明した。利用者も一緒に避難して消火器の使い方も習った。消防署の方からは、「初期消火が無理なら、まず避難を」等とアドバイスがあった。	管理者は今後、「地震発生時の訓練も行いたい」と話していた。災害のいろいろな場合を想定して訓練を重ねて、利用者、職員の安心安全を守れるよう、体制作りをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに配慮した、言葉かけや姿勢を心がけ、職員間で利用者一人ひとりの対応について確認している。 (外部評価) 今年度の法人目標「丁寧」を意識して職員は、言葉遣いや対応に気を付けている。食事時、利用者の食べこぼしに、職員は「大丈夫よ」と声をかけてそっと片づけていた。移動パン屋が週1回事業所前に来ており、利用者は好みのパンを選んで買いおやつにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望が選択できるような場面作りに努めている。日常の会話の中で、思いをくみ取るように配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			個別ケアを基本とし日々の生活の流れに添った中で、一人ひとりのペースを大切にその日の体調に応じた対応を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	
			利用者の化粧品購入や、馴染みの美容院で希望に合わせた、カットや毛染めを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			昼・夕食は隣接施設からの配食で、利用者に食事の準備や後片付けなどを手伝ってもらっている。月に数回は、お誕生会やおやつ作り、手作りご飯にて利用者と一緒に食べるようにしている。また、中庭を活用しバーベキューをしたり、餅つきやクリスマス、夏祭り会等も実施し季節食も楽しんで頂いている。また、希望を聞きながら戸外に出かけ外食も行った。	
			(外部評価)	
			10日に1回ぐらいのペースで食事を手作りする日を設けている。調査訪問日は、手作りの日で利用者は材料を切ったり炒めたり、盛り付け等をしていた。又、利用者は「主婦だからね」と言いながら手際よくランチョンマットを配ったりしていた。職員は手作りの日には利用者と同じものを食べており、「〇〇さんが詰めてくれたイナリは美味しい」「次の手作りの日は何が食べたい？」等と会話が弾んでいた。食後も食器を洗ったりテーブルを拭いたりする利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			個々の食事量や水分量を記録し把握している。摂取できにくい利用者には、食事形態を変更したり、トロミ、寒天飲料等の工夫をして、適切に対応している。できるだけ自分で食べてもらうように食器や自助具の検討もしている。また、食事量の少ない方については管理栄養士と相談しながら高カロリーゼリーやドリンクを提供し栄養に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後の歯磨き・うがいの声かけを行っている。個々の状態に合わせ、見守り・声かけ・介助を行い、確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄記録表を活用しながら、個々の習慣や排泄パターンを把握し、さりげなく誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			屋内外への散歩や体操を行い、身体を動かす機会を設け自然排泄できるように努めている。また、水分補給や、乳製品等をおやつに取り入れるなど工夫している。便の出にくい方は腹部マッサージを行い便秘を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			本人の気持ちに添うように対応し、一人ずつゆっくりと入浴してもらうようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミング良く声かけを行い、スムーズに入浴できるように支援。入浴嫌いの方の為に好きな音楽をかけたり、リラックスして入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中は、なるべく活動を促し、本人の状態に合わせてゆっくり休息できるように支援している。また、夜間眠れない時には、一緒にお茶を飲んだり、会話するなど、安心して眠れるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬の内容が把握できるように、個人ファイルに処方内容をまとめ、職員全員が情報を確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬のないように個々の薬袋で管理し、服薬確認もチェックを行い次回受診をホワイトボードに記入し、2重、3重チェックで事故防止を行っている。受診の付き添いを家族に依頼することで家族にも状態を知って頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、掃除や食器の後片付け、洗濯たたみなどの役割を持ってもらっている。また、行事の検討にて習字、プランターで花や野菜を育てる、外出行事など職員とともに楽しみながら実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの外出や、個別の外出や散歩の支援を職員や家族の協力を得ながら実施している。重度の方も車椅子で中庭を散歩したり、近隣施設より大型車を借り、外気に触れるようにしている。 (外部評価) 毎月、外出行事の計画を立て支援しており、最近オープンしたあかがねミュージアムや港へドライブに出かけている。今月は、紅葉を見に「マイントピア別子」へ出かけ、外食して帰る計画がある。病院受診の帰りに買い物して帰ることもある。今年4月から利用者の誕生月には「希望する場所への外出」支援する計画であったが、遠慮される方が多く継続されていない。	職員は「もっと一人一人の個別外出をしたい」と話していた。さらに、利用者個々の行きたい所ややってみたいこと等を探りながら、外出の機会を作り、生活の場を拡げていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者がお金を所持する事はトラブル防止の為、積極的に行っていないが、金銭管理ができる方には、買い物などでご自身で支払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて、電話をかけられるように支援している。また、絵葉書などで近況をお知らせしている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある飾りつけや、作品などを利用者と一緒に作ったりしている。日々環境整備や整理整頓を心がけながら、利用者にとって居心地の良い環境に努めている。リビングでは、懐メロや唱歌などの音楽を流している。	
			(外部評価) オーストラリアの施設をモデルにした建物で、内部の壁紙は、面ごとに色を替えてある。床暖房の設備がある。中庭は広く居間からも出られるようになっていて、天気の良い日に散策したり、おやつやバーベキューを楽しむこともある。今年は、きゅうりやゴーヤ、トマト等を育てて収穫した。ユニットをつなぐ廊下は長く、歩行器を使って歩行訓練する方が見られた。毎日職員が掃除機をかけており、その後に利用者がモップがけしてくれる。一角に仕切られた部屋があり、午後からは、テレビを見ながらくつろいでいる利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士の座席の配慮や、リビングや中庭等で、思い思いにくつろげる場所がある。	
			(外部評価) 各居室の入り口には棚あり、個々に活けたフラワーアレンジの作品等を飾っていた。各部屋にトイレと洗面台を備えており、利用者によって、「パットをかえてください」「べんがやわらかかったらおしえてください」等と職員が貼り紙をしていた。仏壇を置いている方は、ご家族が持参したお菓子を供えていた。テレビを置いている方、娘さんの名前を付けたお人形をベッドのそばに飾っている方もある。テーブルの上に数珠と経本をおいて、時々、お経を唱える方もある。ピアノのレッスンに通われている方の居室には、電子ピアノと楽譜があった。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や家族写真、花、好きな芸能人のポスターなどを飾られている。自宅から、仏壇やピアノを持ってこられている方もいて、安心感や満足感の支援につながっている。	
			(外部評価) 各居室の入り口には棚あり、個々に活けたフラワーアレンジの作品等を飾っていた。各部屋にトイレと洗面台を備えており、利用者によって、「パットをかえてください」「べんがやわらかかったらおしえてください」等と職員が貼り紙をしていた。仏壇を置いている方は、ご家族が持参したお菓子を供えていた。テレビを置いている方、娘さんの名前を付けたお人形をベッドのそばに飾っている方もある。テーブルの上に数珠と経本をおいて、時々、お経を唱える方もある。ピアノのレッスンに通われている方の居室には、電子ピアノと楽譜があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のできる事、わかる事を活かし、各居室には名前や目印をつけ、環境面を工夫している。また、利用者同士助け合ったり、職員も見守り支援しながら、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。	